

平成30年度 大山崎町留守家庭児童会育成事業（放課後児童クラブ）運営協議会での
5、6年生児童受入れに関する意見のまとめ

意見の分類	協議会としての意見
施設・設備に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 5、6年生の人数に応じて適切な施設規模を検討されたい。 • クラブによっては1室しかない施設もあり、施設・設備の最適化について検討が必要 • 5、6年生はトイレや着替え場所などで配慮が必要
指導員に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 5、6年生の発達段階に合った、多様な要求を満たす保育内容を作るため、指導員には専門性（スキル）が求められるので、そのための研修の機会を確保されたい。 • 会計年度任用職員制度を機に、指導員が安心して働き続けられる身分保障、雇用の安定化を図ることが、5、6年生の受け入れには必要 • 高学年児童が全力でぶつかれる相手として、大人の指導員の存在は大切 • 国から、放課後児童クラブでのシルバー人材の積極的な活用の検討を求める通知が発出されていることも踏まえて、指導員体制を検討されたい。
保育内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 民生委員をはじめ、高齢者にはさまざまな特技を持つ方がおられ、保育に協力いただける部分があるかもしれないので、子どもたちのふるさとを愛する心を育むためにも、地域のさまざまな方との関わりを持てるよう検討されたい。 • おやつ時間の、良かったことや嬉しかったことを報告して皆で考えるという取り組みはとても良い。 • 一体保育では、チャレンジクラブのようなダイナミックな活動ができるのかは分からないので、その点は踏まえておかれたい。 • 人数規模に適した活動内容についても考えておかれたい。 • 管理されるのではなく、自分たち自身で自分たちの活動を作ることが、高学年にとっての充実した活動ではないか。一方で、子どもたちの自主性を高めるように大人が支援する必要もある • 他の自治体の事例や、過去の5、6年生保育の経験などを参考に検討されたい。 • 5、6年生になると遊びの中身が変わってくることに配慮されたい。 • 「活動内容継続なら5、6年生も利用したい」が約4割、「活動内容に関係なく利用したい」が約1割という保護者の声を参考にされたい。 • 今の保育内容を基本的に継続しつつ、学年に応じたアレンジを加えると良いのではないか。 • 皆、コマや一輪車の遊びは好きなように思われるので、考慮されたい。

平成30年度 大山崎町留守家庭児童会育成事業（放課後児童クラブ）運営協議会での
5、6年生児童受入れに関する意見のまとめ

意見の分類	協議会としての意見
年齢区分や児童数 に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年一体保育では下の学年の子が喜ぶことが、高学年児童の喜びにもなる。一方で、高学年児童も自分たち自身が楽しめる活動がベースにあって初めて低学年のお世話を楽しめるということは踏まえておく必要がある。 ・5、6年生と4年生以下で分けるという選択肢以外に、他市町のように例えば4年生以上と3年生以下で分けるといった選択肢も検討されたい。 ・基本的には全学年一体保育を基本に考えられたい。 ・他市町の例で、保育集団を分けている場合は設備と人数が大きな基準となっているように思うので、参考にされたい。 ・他の自治体の事例や、過去の5、6年生保育の経験などを参考に検討されたい。 ・5、6年生は、習い事などによりごく少数になったり、登所日が少なくなる懸念があることに配慮されたい。 ・異年齢の縦の関係も大切だが、同様に横のつながりも大切ということをおかれたい。 ・全学年一体保育とした場合、現状4、3年生が務めるリーダー、サブリーダーの役割を5、6年生に移行するのかがといった検討が必要 ・下の子は、5、6年生の姿を見て「こんなふうになりたい」と感じることができ、視野の拡大につながることを期待される。 ・1人1人性格も異なるので、5、6年生がどのように下の子にかかわってくれる分からない点は懸念される。
外部委託の可能性 に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6年生の受入れについて、外部委託の可能性も検討されたい。 ・現状、町の放課後児童クラブとチャレンジクラブの間で、行事への参画等で一定の協力関係があるといったことを踏まえ、委託によらずとも、例えば町の指導員が保育内容についてチャレンジクラブに相談し教わることができるような協力の形もあるのではないかと。 ・チャレンジクラブの現状を参考にしながら、今後検討を進められたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他市の事例で、5、6年生による低学年児童への暴力があると聞くので、そういったことも考慮に入れておかれたい。 ・学童保育に求められる3機能は①保育機能、②居場所機能、③活動拠点機能、であるが、②と③は密接に関連しているということを考慮に入れておかれたい。 ・大山崎小学校の5、6年生にとっては、放課後に歩いて第二大山崎小学校区のチャレンジクラブまで行かずとも、同じ学校敷地内で保育してもらえるのは安心できると思われる。 ・クラブ間の人数バランスはエリア区分けの影響が大きいということをおかれたい。